

ホーム名：グループホームさざなみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「楽しく・自由に・ありのままに」施設内はもちろん、地域でもコミュニケーションや行事を楽しみ、個人の人格を尊重し自分らしく過ごしていただけるよう努めている。又、毎朝理念を朝礼で唱和し理念を共有している。	前オーナーが掲げた理念をそのまま引き継ぎ、日々念頭に置きながら、実践に向け努めている。毎朝礼時に唱和し、理念を共有している。	今後も、管理者と職員で理念を共有し、実践に向け努力していったらと思う。新事業所には新理念を期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の人たちと出来る限り交流し、催し物等にも積極的に参加している。これまでに、所長代理が地域掃除や防災講習会に参加し、入居者と共にふれあい祭り参加や、絵手紙サークルとの交流等を図っている。葬式等にも出席している。	自治会に加入し、催しに積極的に参加している。地域のボランティアの受け入れなど、入居者にとっても楽しいひと時を過ごしている。所長代理が地域掃除や防災講習会(非常食・心肺蘇生など)に参加。赤い羽根募金にも協力している。	小・中・高生の職業体験学習の受け入れや、幼児との交流、またベルマーク収集・提供なども計画してみたいと思う。新事業所完成の折には、地域の方々に内覧会的な催しをされてみては如何か。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場において、老人会の会長からの質疑応答や、認知症高齢者とのふれあい等を体験して頂いている。近所の方とも交流があり、様々な意見交換を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開き、活動報告・地域や家族との意見交換を行いサービスの向上に活かしている。又、近くに3軒あるグループホームと密に交流をしており、互いの運営推進会議に参加し、運営における相談や問題解決を共に行うなどしてサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1度、第3月曜日に老人会会長や地域包括支援センター職員などを交え開催している。基本テーマは、2ヶ月間の活動状況・今後の活動予定、入居者の近況報告、研修報告、質疑応答である。	近隣のグループホームの職員も参加することで、協力・連携することができ、地域の高齢者介護施設のレベルアップが期待出来る。市の職員や民生委員の参加も促し更なる地域の意識の深まりを期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当の橋本主任とは、日頃から相談にのっていただいております。ユニットケアについて話合ったりしている。現在、移転の相談にもなっております。	市の担当者とは電話や市への訪問により、相談(利用料についてや法令遵守のあり方についてなど)や報告をしている。	市の職員にはホームの実情などを知ってもらえるように、ホームに足を運んでもらうのが望ましい。運営推進会議への出席を引き続き呼びかけられたい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	当事業所では、代表者及び全てのスタッフが身体拘束について学び、具体的な行為を理解すると共に、身体拘束しないケアにスタッフ全員が取り組んでいる。	社内研修や職員会議を通して職員全体で取り組んでいる。2階グループホームから階段に通じる出入り口は、階段が急な事もあり、安全対策のため施錠している。	今後も勉強会などを通じ、身体的拘束だけでなく、言葉や精神的な拘束にも注意を払い、取り組んで行ってほしい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について所長代理が講習会に出向き、学んだ内容を施設内で伝達研修を行っている。又、見過ごしがちな毎月の職員会議の中で入居者全員の個々の状態を話し合う場を設けている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>月に一度の職員の全体の研修の際に、学べる機会を持ち、地域権利擁護事業や成年後見制度を個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、支援して行きたい。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際に、重要事項説明書や契約書の中身を入居者や家族等に説明を行い、不安や疑問点を尋ね理解・納得をしてもらっている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時など意見要望などの収集に努めている。又、御意見箱を設置し家族様の意見を取り入れている。</p>	<p>意見や要望は、直接口頭で寄せられている。1階玄関に設置されている“御意見箱”には、用紙・筆記用具が備えられているが、投書は今のところ無し。</p>	<p>意見や要望は口頭でという事であるが、記録(受付月日・受付対応者・内容・対応結果等)もしっかり残しておきたい。御意見箱には、公共の苦情受付連絡先の明示もされたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員会議の場で意見や提案を積極的に聞き入れ、運営に直接反映させている。又、御意見箱にはスタッフも投稿出来る。</p>	<p>普段から所長代理は、職員からの意見や要望・ケアに対する提案など出し易い雰囲気作りに心掛けている。過去、ミキサー食や歩行器の利用等、職員の提案を検討し、“自立したケア”の取り組みに反映させた。</p>	<p>今後も、所長代理は職員の声に耳を傾け、意見や提案の出し易い職場作りに励んで頂きたい。職員の労働条件の向上もさらなる事業所の発展には不可欠である。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の個々の能力や出勤状況等にあわせ、給与・手当等を整備している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>市町村の研修には積極的に参加の申込を行っている。又、毎月職員が全員受けられる内部研修を様々な内容で行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>圏域でグループホームの交流会を行っている。運営推進会議にも参加できるようにしている。</p>		

## Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者の話をじっくり聞き受け止めている。又、本人の意思を尊重したケアに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>御家族様との連絡は密にとっている。又、御家族様と共に本人を支えて行けるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>一人ひとりと、コミュニケーションをしっかりととり、その時々で本人の想いを受けてとめている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者は、私たちの人生の先輩であることを心にとめ、共に支えあう関係を築いている。家事等も出来る限り手伝っていただいている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の方が、面会に来られた時は、互いに話しをしたり、一緒に本人について話し合える関係を築いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者の家族はもちろん友人等にもホームに来て頂けるよう努力している。</p>	<p>手紙を書いて投函したり、また、受け取った友達が来所したりと、関係の維持に手助けしている。電話での声に安心する入居者もおられる。墓参りなどは、家族さんの力を借りている。</p>	<p>入居者のこれまでの暮らし方や生活歴を把握している事が重要である。今後も、馴染みの人や場所との関係が続くよう、引き続き支援をお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員一人ひとりが入居者同士の関係を把握し、支えあえるように努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所されても、何かあれば連絡を取り合えるよう努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	“声なき声”を職員が感じ取る努力をしながら、日々把握に努めている。	所長代理が社会福祉主事の勉強をする中で、大変役立っているとの事である。今後も職員と共有しながら、より一層思いや意向の把握に努めていってもらいたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしを生かせるよう工夫している（掃除、洗濯物たため、食器拭きなど）		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議の場において、一人一人の現状について、全員と共有する時間を設けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等、職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族からの意見や希望は余り出ないが、今後の方向性については話をしている。3ヶ月毎に見直しをし、緊急性のある場合はその都度現状に即した介護計画を作成している。家族の確認・サインももらっている。	今後も、入居者それぞれに合った介護計画を、医師・看護師の意見を取り入れ、職員の“気づき”や“声なき声”を反映しながら作成して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別に生活記録や申し送り、ケアチェック表に記入し、スタッフ同士情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様からの相談や入居者の急変時等にも、事業所の多機能性を生かした支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や、ボランティアの人たちと協力しながら、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつ連絡しても連絡が取れる、又急変の時は、すぐに来所して下さるよう連携を取っている。	ホーム入居時に家族・本人と話し合い、かかりつけ医を提携医院に変えてもらった。特に混乱は起こっていない。内科以外の受診については入居前からの医院受診を継続している。受診の際は家族の都合により職員が同伴している。	提携先の医師は何時でも連絡が取れ、協力して入居者の健康管理に当たっている。看護師も週2回健康チェックをしている。診てもらうことだけでなく、医師・看護師からの報告を所長代理以下計画作成担当者・職員も共有されたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護職員とともに、日常の健康管理の支援をしている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>出来るだけ早期に退院出来るように、主に所長代理が病院関係者との情報交換や相談に努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方についてを書面にて説明し、出来るだけ早い時に家族等と話し合いをしている。又、医師と共に話し合って支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居者はホームに入居後適切なケアのもと永年生活できて入居年数は長い。しかし年とともに重度化は避けられない。看取り指針も作成し、重度化したときホームで看取るという方針はできている。看取り加算に関してはまだ申請していない。</p>	<p>看取り加算の指定を受けなくてもしっかり看取りの方針は出来ている。複数の入居者が同時期に重度化した場合の対応を考えると、現在の体制では複数・同時の看取りは難しい。そのことから、看取り加算指定を受けるところまでの体制は出来ていない。今後の課題である。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時にも対応できるように研修に参加している。又、マニュアルを分かりやすい場所に設置し常に把握できるよう努めている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の消防署、自治会、他事業所等と話し合い協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年に1回は消防署にも協力をしてもらって訓練をし、その他1回は近隣の協力者の参加を得て行っている。また連絡網も作成している。夜間については所長代理がホームの直ぐ側で住んでおり夜勤者や入居者の不安感に備えている。</p>	<p>ホームは2階に有り、階段は急勾配で、2階にベランダも無いことから、非常事態が起こった時の連絡体制、避難役割分担を職員全員に周知することは必須条件である。来年には新ホーム移転の計画があり、其れまでの期間、更なる対応を望む。備蓄品についてもライフラインが停止したときを想定した備蓄を考えて見られたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	<p>プライバシーを損なわない、入居者にいやな思いを与えないことを職員に日々周知している。全職員に浸透させるべく、内部研修でも取り上げている。</p>	<p>高齢者介護とは如何に入居者の心に寄り添えるかということが一番大切な事である。勤務年数の短い職員・若い職員にも周知され更なる全体のレベルアップを図りたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人が思いや希望を表せるように話しかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得してもらえよう支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりのその人らしい暮らしを出来るように支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入居者一人ひとりにその人らしい暮らしを出来るよう本人の思いを大切にしている。スタッフから衣服を提供したり、誕生日には靴下等おしゃれを楽しめるよう支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の好みを取り入れた食事内容を取り入れ、好みに合わせた支援を行っている。</p>	<p>食事は全てホーム内で職員が作っている。メニューは以前管理栄養士に作って貰った献立を基本として使用。5パターン(1パターン1週間7日分)を繰り返し使うが、季節により材料に変化をもたせるなど、職員の努力が実って家庭的な食事が出来ている。</p>	<p>提示してもらったメニューは調理のための材料購入の資料であり、必ずしも食べた食事が記録に残っていなかった。作って食べた献立の記録をのこされたい。最初の点検から時期も経たので、再度管理栄養士に栄養バランスなどの点検をしてもらうことも考えられたい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食べる量は個々の状態や意思を尊重した支援を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人ひとりの状況に応じた食後の口腔ケアの支援している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の状態を把握し、排泄パターンに合わせたケアを行い、自立出来るよう支援している。</p>	<p>さりげなく声を掛けたり、様子を見て誘導することで、排泄の自立に向けて職員はつとめている。内部研修においても排泄の自立の大切さを学習しているが、夜間になると人員の都合で、夜間のみオムツ使用となる入居者もいる。</p>	<p>排泄の自立支援にむけ、職員は努力しているが、入居者の高齢化に伴い難しいところも出てきている。今後とも自立排泄の支援を継続されたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の予防と対応について工夫や身体を動かす働きかけ等に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>お風呂は毎日沸かしている。夏は週3回、春・秋・冬は週2回を目標に支援している。入浴しながら入居者には湯上りの飲み物を工夫することで、目標回数入浴を達成している。入浴を望む入居者は勿論回数にこだわらない入浴支援をしている。</p>	<p>ホームとしては入浴は毎日3人から5人くらいである。お湯は入居者ごとに換えてはいない。感染症のことなどを考慮して、オーバーフローにするか、1人ずつお湯を換えるか、ということも考えて欲しい。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活の様子を見ながら、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう配慮している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員は、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>お手伝い、ゲーム、レクリエーション等に役割を持って頂くよう支援している。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>週3～4回は散歩して頂けるように支援している。</p>	<p>食事材料の買い物も兼ねて散歩に行ったり、近くの公園には週に3～4回は行く。今年の夏は暑すぎて散歩は中止していた。春はお花見、夏は花火を見に中遠出をする。ふれあい祭りに出かけるときもある。</p>	<p>ホームのリビングばかりでなく外に出かけることは、季節感を味わえ気分転換となる。それだけでなく、足腰、器官の鍛えなど様々な効用がある。是非計画的な外出が継続で来るよう、更なる努力を期待する。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望に応じてお金を使えるよう支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁にはトイレの方向を書いた紙を貼り付け、わかりやすくしている。又、温度調節をこまめに行い、居心地のよい共用空間づくりに工夫している。</p>	<p>リビングは広く、食事するテーブルと皆で団欒できるソファなど配置されている。入居者が作ったちぎり絵の大きいカレンダーも掛けられている。車椅子用トイレも仕切りが取り付けられて前回の評価時の指摘の改善が見られた。</p>	<p>室内は心地よい空間に設えられている。今年の暑さのためか花壇の植木は疲れ気味である。道路を通る人からホームの玄関先がどのように見えているかも考慮して、ごみバケツの置き方などにも、今ひとつ工夫が欲しい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室内やソファには好きな場所にいられるよう工夫し自由に暮らせるようにしている。</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には本人が心地よく過ごせるよう、本人の好みのもや使い慣れたものを置くなどして工夫している。</p>	<p>居室には家族の写真や思い出の品を飾ってある部屋もあるがそうでない部屋もある。居室の中に、ダンボールの箱が置いてある部屋が複数あった。何か代替品にするなど考えられたい。</p>	<p>認知症高齢者が毎朝時計やカレンダーを目にすることで、日時や時間の認識が呼び起こすことにつながる可能性もある。どの居室にも時計（アナログ）カレンダーを掛けることも検討していただきたい。飾り気のない居室には何か入居者の好みに合いそうな物を飾っていただけるとなおありがたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>なるべくオムツに頼らないように必要に応じてポータブルトイレを置きいたり、個々の状態に合わせ、お手伝いなどをしていただいたりしている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない